

## 記録：第 348 回海外邦人安全対策連絡協議会

7月12日、「第348回海外邦人安全対策連絡協議会」を開催したところ、概要につき以下のとおり。主な議題は、①現下のインドネシア（ジャカルタ首都圏）の社会情勢において特に不安や懸念を感じる点、②今後の海安協の開催方法について。

### 1. 冒頭

（大使館総括公使）

今般の安倍元総理の逝去を受けて、大使館としても、改めて外部からの脅威に備える必要性を感じる点。大使館の方で、弔問記帳を受け入れているが、予想を遙かに超えた方々の来訪をいただいております、いかに安倍元総理がこの国においても非常に大きな存在感を発揮されていたのかということを感じる次第。今回の事件の原因については、今後日本で調査が進み明らかになっていくと思うが、一部には警備が甘かったのではないかと指摘もあると承知している。防ぐことができた事件かもしれないし、もう少し注意を払っていれば被害が少なく済んだ事件かもしれない。我々自身も海外で活動する上で、教訓として、このような事件が起こることのないよう、日頃から出来る準備、出来る注意はしっかり行っていくことが改めて重要と考える。そのような意識付けのためにもこの海安協の場が役に立っていけば良いと考える。

### 2. 治安ならびに邦人に関わる最近の事件・事故報告

（大使館政治班書記官）

今回の安倍元総理への襲撃については、警察による措置については問題があったと言わざるを得ない。警察はそれを認めた上で、今後必要な検証をしていくことになる。現職の総理あるいは退職された元総理の殺害事件については戦前まで遡るが、他方で、襲撃された例は戦後にもあった。こういった時に大事なことは、過去に学ぶことと油断をしないこと。今後も海安協の場を通じて、ヒヤリ・ハット事案を共有したり、過去例から学ぶということを行っていかねばと考える。

（大使館警備班書記官）

今回の事件に関して、インドネシアでどういうことが起こり得るかと考えた時に、集会やデモなど多くの人々が集まる場所では事件が起きやすいと考えられる。事件に巻き込まれないためにもそれらの場所には近づかないようにしていただくことが大切。

邦人に関わる事件・事故については、既に報道で大きく報じられていたので、ご承知の方も多いかと思われるが、6月13日に日本人が被害に遭う強盗事件が起こった。事案概要は、夜中の午前3時に仕事を終えて徒歩で帰宅中、北ジャカルタのグロドック

という地区で、バイクに乗った男性2名にカバンを奪われそうになったため被害者が抵抗したところ、犯人が持っていた鎌のような刃物で頭部を切りつけられ負傷を負いカバンを奪われたというもの。その後、被害者が警察署に届け出て、警察が捜査を行った結果、犯人2名が逮捕され、被害品も見つかっている。

邦人被害の事件ということで報道を見られた方も多いかと思うが、この事件を受けて改めて皆様をお願いしたいことは、特にジャカルタ中心部では歩道が綺麗に整備され、MRTもあり、徒歩移動等への抵抗がなくなっているのかと思われるが、日本とは同じようにはいかないということを改めて意識していただきたい。特に夜間はドア to ドアで車等で移動していただき、出来る限り歩かないようにして頂きたい。万が一歩かないといけない場合は人通りが多い場所を歩くなど対策を講じていただきたい。

今回犯行を行った2人組は、特段日本人や女性を狙った訳ではなく、ターゲットを探して付近を回っていたところ、一人で歩いていた人がいたので犯行に及んだとのこと。

普段からお願いしているが、防犯対策を講じていただき、特に夜間には徒歩での移動を極力避けるということを再度意識していただきたい。大使館からも改めて注意喚起させていただいたが、道路状況が整備されたことに伴って、防犯意識が低くなっていると考える。この事件を機に、改めて日頃の防犯対策にご注意いただきたい。

### 3. 医療関連状況について

(大使館医務官)

ジャカルタでもインドネシア全体でも、新型コロナは、激増とは言えないものの、じわじわと増えてきているというのは間違いない。今回、まだ保健省等は情報を出していないが、近隣諸国の状況を見ると、おそらく今流行しているのは、日本でもそうだが、BA.5という変異株と思われる。この変異株については、以前のオミクロンよりは他人への感染力がやや高い。また、まだはっきりはしていないが、オミクロンに比べると重症化もしやすいと言われている。

実際のところ、在留邦人の間では、例えば入院が必要になったとか、あるいは重症化したなどの報告はまだ受けていないが、一般のインドネシア人の中ではそういう方が増えてきている状況。邦人がよく利用している病院も、以前に比べると段々混み合ってきており、これはコロナ病床を減らしたせいもあるが、以前ほどではないにせよ、かなり入院者数が増えてきている。

引き続きコロナに対しては十分な感染対策を取りつつ、予防策としては、いつも申し上げていることの繰り返しとなるが、不要な人との接触を避け、他の人に移さないことが一番大事だと考える。

#### 4. 各社・機関からの状況報告

今回は以下の2点について、出席者から報告をすることとなっていた。

① 現下のインドネシア（ジャカルタ首都圏）の社会情勢において特に不安や懸念を感じる。（希望者から）

② 今後の海安協の開催方法（オンライン）についてのご意見。

（以下、①を「社会情勢における不安・懸念事項」、②を「今後の海安協の開催方法」と表記する。）

（企業からの報告）

社会情勢における不安・懸念事項に関しては、最近のインドネシアにおける物価上昇による社会不安が、犯罪等に繋がっていかないかが心配。

今後の海安協の開催方法に関しては、内容的にはオンラインで十分だが、他方で、会員間の情報交換や懇親の意味も含めて、コロナの状況も踏まえた上で、今の状況だと半年に1回くらいのタイミングで顔を合わせる形（対面形式や懇親会）で良いかと考える。

（企業からの報告）

社会情勢における不安・懸念事項に関しては、特になし。

今後の海安協の開催方法に関しては、普段、カラワンから参加していることもあり、基本はオンラインを希望する。他方で、対面形式での開催も非常に有効だと思うので、半年に1回や年に1回、対面形式を挟むのが良いかと考える。

（企業からの報告）

社会情勢における不安・懸念事項に関しては、特になし。

今後の海安協の開催方法に関しては、ハイブリット形式が良いかと考える。遠隔地の方にはオンラインの利点があり、他方、対面形式だとコミュニケーションが取りやすいという利点もあるので、この両方を使ったハイブリット形式を希望する。

（企業からの報告）

社会情勢における不安・懸念事項に関しては、特にないが、私は4年前にもインドネシアにいて、色々買い物をすると物価が高くなっていることを実感している。

今後の海安協の開催方法に関しては、ハイブリット形式が良いかと考える。また、時々懇親会のような場も可能であれば設けていただきたい。

（企業からの報告）

社会情勢における不安・懸念事項に関しては、医務官からも紹介があったとおり、コロナ感染者が増えてきてフェーズが一旦変わりかけるような状況があったので、情報をいただきながら注視していきたい。

今後の海安協の開催方法に関しては、原則オンラインで良いかと思うが、時々お会いできる機会も設けていただけると有り難い。

(企業からの報告)

社会情勢における不安・懸念事項に関しては、既に各社から出た意見のとおり、治安状況、デモの発生状況、コロナが再拡大する気配がある中での、各省庁からの通達等の情報を共有いただけると助かる。

今後の海安協の開催方法に関しては、対面形式は半年に1回くらいのペースで、基本的にはオンラインが良いかと考える。一点だけ、オンライン会議の開始時間について、現在 11:00 からというのはこれまでの対面形式で大使館に集まっていたときの渋滞等を加味した開始時間かと思われるが、できれば 10:00 頃から開始した方が午前中の時間を有効に使えろと考える。各社からの意見を踏まえて、集まれる時間で開始時間を設定いただきたい。

(企業からの報告)

社会情勢における不安・懸念事項に関しては、特になし。

今後の海安協の開催方法に関しては、基本はオンラインで、定期的集まる機会があれば良いかと考える。

東部工業団地では、今後の海安協の開催方法に関しては、ハイブリット形式が良いかと考える。

社会情勢における不安・懸念事項に関しては、7月1日付けで国内移動規制に関するタスクフォースが発表されており、各県をまたぐ国内移動には必ず

「PeduliLindungi」への登録、3回目のブースター接種が必要となること、工業団地の方でも発表されたと聞いている。以前のタスクフォースに関しては、この発行により取り消し無効となるという話なので、新しい通達を各企業で確認いただきたい。

(企業からの報告)

社会情勢における不安・懸念事項に関しては、弊社のお客様である工場、金融機関などの盗難等の被害は、このコロナが落ち着いた頃から、また物価上昇も関与しているかと思われるが、報告が多くなった。

今後の海安協の開催方法に関しては、ハイブリット形式が良いかと考える。

前回だと思うが、犯罪の統計の話が出たので調べたところ、Badan Pusat Statistik (中央統計局)のウェブサイト「Statistik kriminal」と検索いただくと、毎年年末に犯罪に関する数字が掲載されていた。2017年から2020年までしかデータがないが、2017年の犯罪数は33万件、そこから毎年3万件くらい減少していき、2020年には24万7千件となっていた。検挙率も2020年で71%という数字になっていた。我々が感じる体感の治安と、この警察等の数字がどこまで正しいかというのはあるが、数字上犯罪は減っている。ただし、冒頭で大使館から発言があったとおり、邦人は不安があると思われる。過去からあるような犯罪に対しては、基本の徹底が大事だが、これまでなかった犯罪、例えばネット犯罪、薬物関係、女性関係といった犯罪は

再度注意をする必要があると改めて感じた。

(企業からの報告)

社会情勢における不安・懸念事項に関しては、特になし。

今後の海安協の開催方法に関しては、オンラインを基本とし、半年に1回対面形式で良いかと考える。

(企業からの報告)

社会情勢における不安・懸念事項に関しては、特になし。

今後の海安協の開催方法に関しては、コロナも増加傾向であるが、せっかくの機会なので対面形式で皆様とお会いできれば情報交換も密にできるので、可能であればハイブリット形式が良いかと考える。

(企業からの報告)

社会情勢における不安・懸念事項に関しては、治安情勢やコロナの状況に尽きる。

今後の海安協の開催方法に関しては、オンラインを基本として、新しい会員にとっては定期的に対面形式や懇親の場があれば名刺交換もできるので有り難い。

(企業からの報告)

社会情勢における不安・懸念事項に関しては、特になし。

今後の海安協の開催方法に関しては、オンラインを基本として、半年に1回対面形式で良いかと考える。

(企業からの報告)

社会情勢における不安・懸念事項に関しては、特になし。

今後の海安協の開催方法に関しては、オンライン又はハイブリットを基本として、半年に1回顔を合わせる機会(対面形式又は懇親会)があれば良いかと考える。

(企業からの報告)

社会情勢における不安・懸念事項に関しては、特になし。

今後の海安協の開催方法に関しては、ハイブリット形式を基本として、半年に1回対面形式で良いかと考える。

(企業からの報告)

社会情勢における不安・懸念事項に関しては、特になし。

今後の海安協の開催方法に関しては、対面の回を決めるのではなく、毎回ハイブリット形式が好ましいと考える。(三菱UFJ銀行)

社会情勢における不安・懸念事項に関しては、特になし。

今後の海安協の開催方法に関しては、オンラインを基本として、顔を合わせる機会が半年に1回あれば良いかと考える。または毎回ハイブリット形式とするのも一つの方法かと考える。

(企業からの報告)

社会情勢における不安・懸念事項に関しては、県を越える国内移動の制限に懸念を感じており、特にオフィスやモール等の施設入館の制限の動向を注視している。

今後の海安協の開催方法に関しては、可能であれば顔を合わせた方が色々ときめ細やかな相談ができるので、ハイブリット形式を基本として、希望者はオフライン参加できるようにするのが良いかと考える。

(企業からの報告)

社会情勢における不安・懸念事項に関しては、特になし。

今後の海安協の開催方法に関しては、オンラインを基本として、顔を合わせる機会が半年に1回あれば良いかと考える。また、ハイブリット形式にも異論はない。

(企業からの報告)

社会情勢における不安・懸念事項に関しては、特になし。

今後の海安協の開催方法に関しては、顔を合わせることはコミュニケーションの充実というメリットがあると考えるので、オンラインを基本として、時々皆様に集まって対面形式で打合せできれば良いかと考える。

(企業からの報告)

社会情勢における不安・懸念事項に関しては、久しぶりにコロナの感染者が社内で発生した。これによって症状のない感染者が出ただけで、濃厚接触者が多数発生した場合に、工場の稼働が少し心配。

今後の海安協の開催方法に関しては、各社転勤のタイミング等もあるので、ハイブリット形式を基本として、時々対面形式でできれば良いかと考える。

(団体からの報告)

社会情勢における不安・懸念事項に関しては、ある会員から次のような情報提供があったので共有させていただく。

「コロナにより出来ていなかった出張活動が再開し、1か月で10人以上が出張してくるようになった。最近、出張者が多いという理由で、イミグレーションが立ち入り検査に来た。全員、211 商業ビザを取得していることや、出張者それぞれの出張目的などを担当官に説明したところ、担当官は帰って行った。」

以上のような情報提供があった。商業ビザなど正しい種類のビザを取得して、検査の際には説明できるよう気をつけていただきたい。

今後の海安協の開催方法に関しては、オンラインを基本として、顔を合わせる機会が年に1、2回あれば良いかと考える。特に毎年、年度末の3月頃から6月頃までは、各企業の人事異動等で担当の方が変わることがあるので、このような期間を考慮に入れて顔合わせ、名刺交換の機会を設けると良いかと考える。

(JETRO)

社会情勢における不安・懸念事項に関しては、特になし。

今後の海安協の開催方法に関しては、オンラインを基本として、半年に1回対面形式で良いかと考える。

(国際交流基金)

社会情勢における不安・懸念事項に関しては、特になし。

今後の海安協の開催方法に関しては、オンラインを基本として、年に1、2回対面形式で良いかと考える。

(チカラン日本人学校)

社会情勢における不安・懸念事項に関しては、特になし。

今後の海安協の開催方法に関しては、ハイブリット形式を希望する。

(ジャカルタ日本人学校)

社会情勢における不安・懸念事項に関しては、特になし。

今後の海安協の開催方法に関しては、ハイブリット形式を希望する。

(企業からの報告)

社会情勢における不安・懸念事項に関しては、特になし。

今後の海安協の開催方法に関しては、ハイブリット形式を希望する。

(大使館領事部長)

社会情勢における不安・懸念事項に関しては、一部から、現下の物価上昇等が市民の不満爆発等に繋がっていくのではないかと、という意見をいただいた。

また、各企業とも、本邦からの出張者が増えている中で、入管当局による抜き打ちの立ち入り検査がよく行われると思われる。イミグレ関係で特に気をつけていただきたいのは、残念ながら内部情報がイミグレに伝わるという面があり、これまでもそうした事例がよくあった。そのため、特に出張者においては、正しいビザを取得して、そのビザの活動範囲をよく理解した上で活動いただくことが重要。

今後の海安協の開催方法に関しては、ずっとオンラインのままではなく、ハイブリット形式や、適当な間隔での対面形式も織り交ぜるという意見が多かった。これに関しては、本日の意見を踏まえて検討を進め、またご案内させていただく。

現在、インドネシア、ジャカルタにおいては、治安面でそれほど脅威を感じることはないという状況ではあるが、一般犯罪も含め注意すべきところは注意が必要。引き続き安全にお過ごしいただきたい。特にこれから日本人学校などは夏休みに入るので、お子様の活動や旅行に行くこともあるかと思うが、気をつけていただきたい。

次回海安協は2022年8月9日(火)に開催予定。